

論 說

全國自動車道路網に就て

工學博士 丹 羽 鋤 彦



道路といふものは人類の發生した時から存在したもので、彼の古い羅馬でも既に舗装した道路が出来て居つたといふ状態から考へると、過去數千年の間の發達は洵に鈍い、その改良も甚だ遅々たるものである。近年に至つて交通の點のみならず都市衛生の上から、又都市美觀の上から諸外國でも市街地には舗装道路が稍普及されたが、最近自動車の發展に伴つて一般的に其改良進歩が非常に著しくなつて來たものである。併しながら道路の改良といふものは、他の土木事業と比較して見れば

やはり未だ非常に遅れて居るやうに思はれる。といふのは是れは一つは道路の仕事が餘り簡單であつて他の治水事業であるとか、橋梁の仕事であるとか、又は鐵道港灣の仕事のやうな工合に、學理的にも亦經濟の問題からも、非常に研究を要するやうなことが比較的少いからではないかと思ふ。だから技術家としても從來あまり重きを置いて居なかつた、サウして多少土木の技術を解する者には誰にでも出来るやうな仕事が多かつた。唯だ近代の鋪裝材料などは稍研究を要する問題であるがその他の事は餘り深く研究を要するものでもないやうに考へる。

二

そんな様な工合に道路といふものは、技術的には、大した研究を要するものではないが、之れを一國の經濟關係から考へて見ると實に大切なものであつて、その影響は餘程大きなものである。從來陸上の物資運搬は此の道路のみに依つて居つた時代が相當長かつた。その後鐵道が出来てからは一時鐵道萬能の世の中になつて、他の道路は捨て、顧みられないやうな時代もあつたが、近來自動車の發達に伴ひ、近距離輸送上重要な機關となつた爲め道路は再び大切なものになつて、各國とも道路の改良といふことが盛んに行はれて、近距離の小運送は大體に於いて鐵道に依らずして道路を利用するといふ状態になつたのである。此の時代の要求に適應する爲め、今度内務省が全國に自動車道を普及するといふ御計畫があるやうに新聞紙で拜見したが、至極機宜に適した事で、是非とも成立をさせたいものと思つて居る。殊に本邦に於ける一般貨物の運賃を見るに、鐵道船舶の如き遠距離輸送賃

金は既に相當低減せられ居るに係らず、市内其他近距離小運送の費用は驚くべき高價に上り國民生活に多大の脅威を與へつゝあるのである。今日物價低減の鍵を握るものは實に小運送の改善策であると思ふので、此自動車道路の普及は最も急務と考へ内務省の計畫を歓迎するのである。

三

併しその全國の自動車道の路線の選定及施工といふ事に就いては、十分な考慮を要する必要があると思ふ。

第一に遠距離輸送の貨物に對しては從來の如く鐵道、港灣等を利用すべきものである。自動車道は近距離の輸送を主として扱はなければならぬ。サウすると此の道路が單に國道であるとか縣道であるとかいふが爲めに全部を貫通して自動車に便利を與へるよりは、先以て主要停車場とか或は重要港に聯絡する所の近距離の道路を先きに着手すべきものであらうと思ふ。詰り遠距離を通じて觀光客などが自動車に乗つて旅行するための道路よりは寧ろ近距離物資の移動を主として、遠距離輸送設備の補助機關として働き停車場或は船付き場に聯絡するといふ事が最も必要であると思ふ。即ち自動車道路は一方は鐵道貨物の營養線であると共に、一方は商港の水陸貨物集散に便利を與へるやうな方に重きを置いて戴いて、近代のやうな國費多端の場合に於いては、始めから全部を貫通し遠距離まで延ばすといふ事でなく、一部分づつ必要な所から着手完成されてサウして漸次に全國の道路網が開通するやうにしたい、それが路線の選定に當つての必要ではないかと思ふ。

第二に道路技術者の撰定である、道路工學は權威者といふものは要らぬ位簡單なものである若し強ひて權威者を求むれば、鋪裝材料素質調合を研究する人等か、又は現場の作業に堪能なる下級技術員のやうなものだらうと思ふ。且つ道路改良の必要は最早一般に知れ渡り宣傳の口の人を尊重する時代は既に過ぎ去つて、今や實際問題に觸れて經驗ある腕の人を要するのである。元來道路の仕事といふものは日常吾々に必要な米の飯のやうなもので、道路技術者は飯炊の如き者である。米飯は特にうまい物ではないけれども技巧を弄していろ／＼な味をつけることよりも、平凡ではあるが、普通の炊方をして飽きのこないやうにすることが大切であると同様に、研究所以外にては道路技術の實務は理論を振り廻すよりも經驗に基づき眞面目に努力することが適切である。

四

今回の自動車道路の大計畫に就いても、これ等の點から考へて見て、路線の選定は政略的の意味を避けて、實際必要な經濟的利益を主眼として運んで戴きたい、それから之に従事する技術者は、机上の學者よりも實際の經驗者を選んで擔當させて戴きたいと思ふ。若し鋪裝工事其他に就き何か特別の指導なり練習が必要であると認められたならば内務省の試験所に於いて豫ねて御研究になつて居る所の鋪裝材料や施工法の試験成績を發表されて、それを基準として施行するやうに指導せられ場合に依つては實際家を召集されて講習の機會を與へて下されば地方に居る所の下級技術者でも充分これ等の仕事に堪能の者が出來ると考へる。